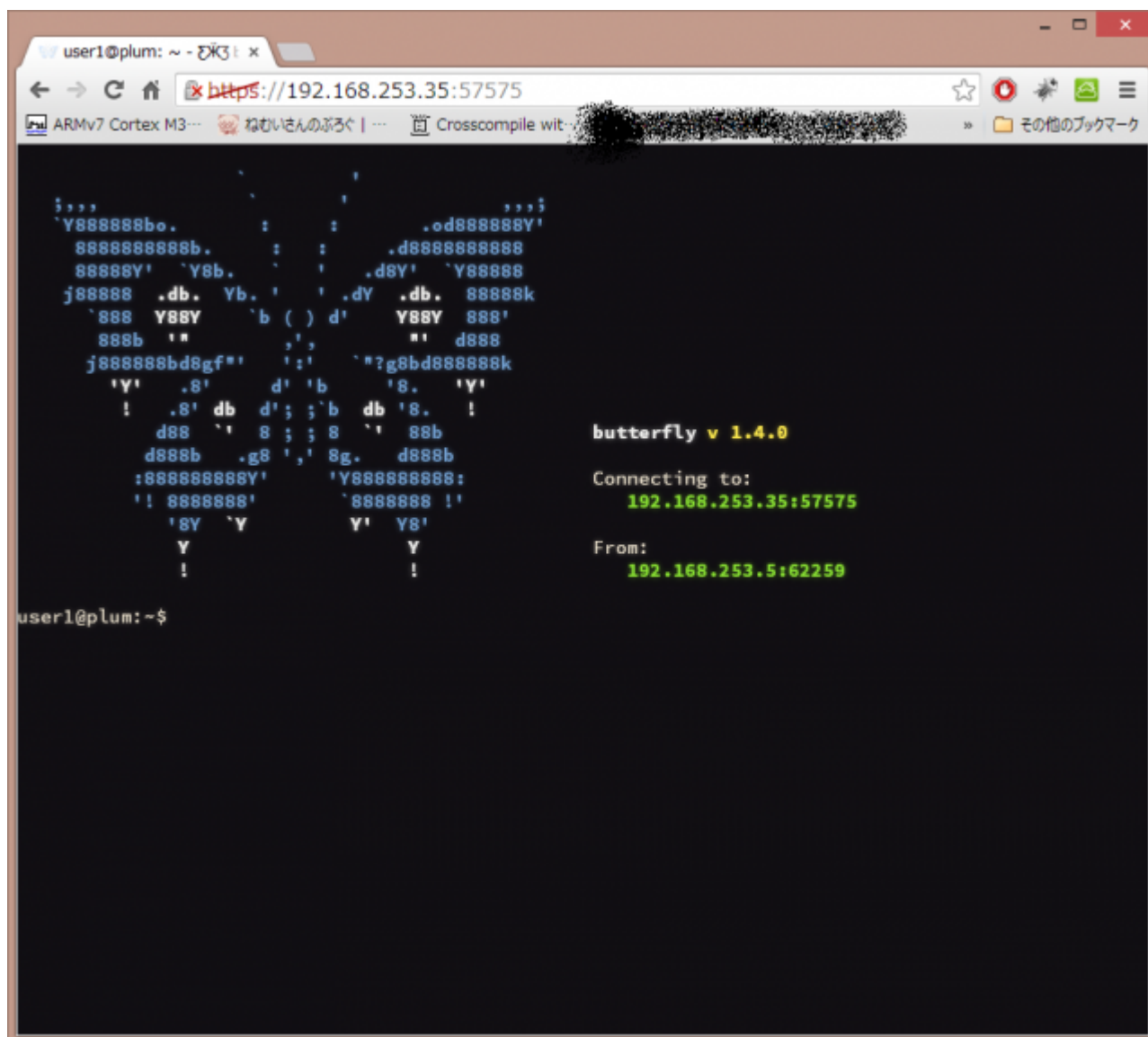


目次

Webベースターミナル(butterfly)の利用	1
設定の有効化	1
設定ファイルの編集	1
butterflyサーバの起動	2
クライアント証明書のインポート	3
ブラウザでのアクセス	11

Webベースターミナル(butterfly)の利用

Webブラウザで使えるWebベースのターミナル [butterfly^{1\)2\)}](#) をインストールしています。



[butterfly_cap.mp4](#)

初期状態では有効にしていないので、有効化するためには設定ファイルを編集する必要があります。

設定の有効化

設定ファイルの編集

設定ファイルは、`/etc/default/butterfly` です。

デフォルトの内容は下記のとおりとなっています。

```
START=no
USER=user1
HOST=0.0.0.0
PORT=57575
UNSECURE=0
```

それぞれの項目の意味は下表のとおりです。

キー	初期値	内容	設定可能な値
START	no	butterfly 有効/無効 切替	"yes"/"no"
USER	user1	butterfly アカウント	登録してあるアカウント名
HOST	0.0.0.0	bindアドレス	
PORT	57575	bindポート	
UNSECURE	0	SSLクライアント認証なし(1: HTTP接続)	"1"/"0"

インターネット経由でアクセスする場合、セキュリティ的に問題がありますので
"UNSECURE" を " 1 " にすることはおすすめできません。
有効にする場合□LAN内での利用に限定することをおすすめします。

有効化するために□"START" を "yes" に設定して保存します。

```
user1@plum:~$ sudo cat /etc/default/butterfly
START=yes <----- "yes" に変更した
USER=user1
HOST=0.0.0.0
PORT=57575
UNSECURE=0
user1@plum:~$
```

butterflyサーバの起動

butterfly を起動します。

```
user1@plum:~$ sudo service butterfly start
butterfly start/running, process 1318
user1@plum:~$
```

初回起動時は、証明書関係を自動で作成します。
作成されたクライアント証明書は、USERで指定したアカウントのホームディレクトリにコピーされます。

```
user1@plum:~$ ls -l
total 8
-rw-r--r-- 1 user1 user1 1298 Mar 25 13:35 butterfly_ca.crt
```

```
-rw-r--r-- 1 user1 user1 3586 Mar 25 13:35 user1.p12
user1@plum:~$
```

クライアント証明書のインポート

アクセスするブラウザにこの証明書をインポートします。
Google Chromeでの例です。



証明書

目的(N):

<すべて>

個人

ほかの人

中間証明機関

信頼されたルート証明機関

信頼された発行元

信頼されない発行元

発行先	発行者	有効期限	フレンド名	
-----	-----	------	-------	--

インポート(I)...

エクスポート(E)...

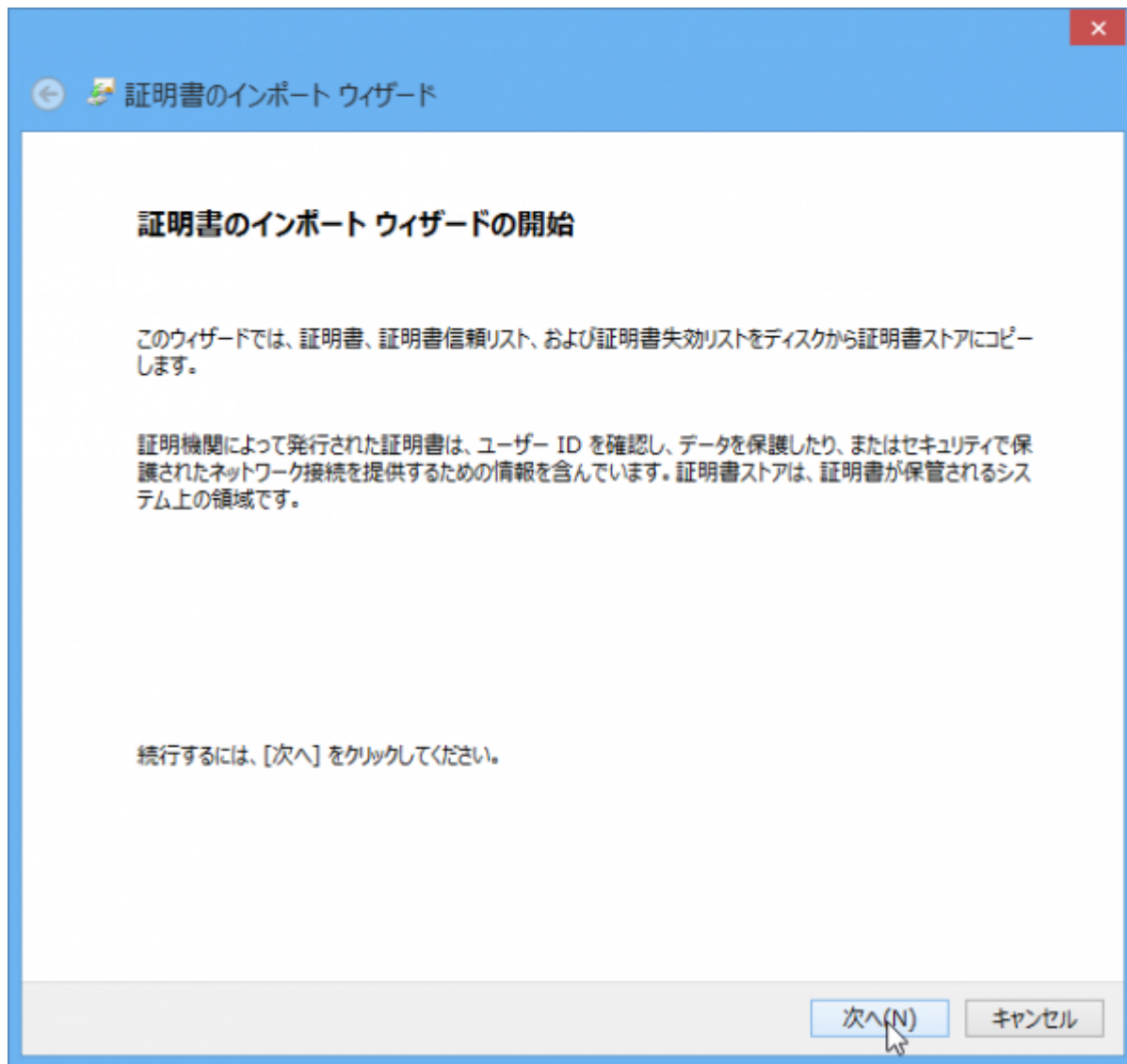
削除(R)


詳細設定(A)



証明書の目的

表示(V)

閉じる(C)





  証明書のインポート ウィザード

インポートする証明書ファイル

インポートするファイルを指定してください。

ファイル名(F):



参照(R)...

注意: 次の形式を使うと 1 つのファイルに複数の証明書を保管できます:

- Personal Information Exchange- PKCS #12 (.PFX,.P12)
- Cryptographic Message Syntax Standard- PKCS #7 証明書 (.P7B)
- Microsoft シリアル化された証明書ストア (.SST)

次へ(N)

キャンセル

  証明書のインポート ウィザード

インポートする証明書ファイル

インポートするファイルを指定してください。

ファイル名(F):


参照(R)...



注意: 次の形式を使うと 1 つのファイルに複数の証明書を保管できます:

- Personal Information Exchange- PKCS #12 (.PFX, .P12)
- Cryptographic Message Syntax Standard- PKCS #7 証明書 (.P7B)
- Microsoft シリアル化された証明書ストア (.SST)

次へ(N)

キャンセル



  証明書のインポート ウィザード

インポートする証明書ファイル


インポートするファイルを指定してください。

ファイル名(F):
L:\user1.p12


参照(R)...

注意: 次の形式を使うと 1 つのファイルに複数の証明書を保管できます:

- Personal Information Exchange- PKCS #12 (.PFX,.P12)
- Cryptographic Message Syntax Standard- PKCS #7 証明書 (.P7B)
- Microsoft シリアル化された証明書ストア (.SST)

次へ(N) 

キャンセル

 証明書インポートウィザード

秘密キーの保護

セキュリティを維持するために、秘密キーはパスワードで保護されています。

秘密キーのパスワードを入力してください。

パスワード(P):

☐ パスワードの表示(D)

インポート オプション(I):

☐ 秘密キーの保護を強力にする(E)
このオプションを有効にすると、秘密キーがアプリケーションで使われるたびに確認を求められます。

☐ このキーをエクスポート可能にする(M)
キーのバックアップやトランスポートを可能にします。

☐ すべての拡張プロパティを含める(A)

次(N)

キャンセル

×

← 証明書のインポート ウィザード

証明書ストア

証明書ストアは、証明書が保管されるシステム上の領域です。

Windows に証明書ストアを自動的に選択させるか、証明書の場所を指定することができます。

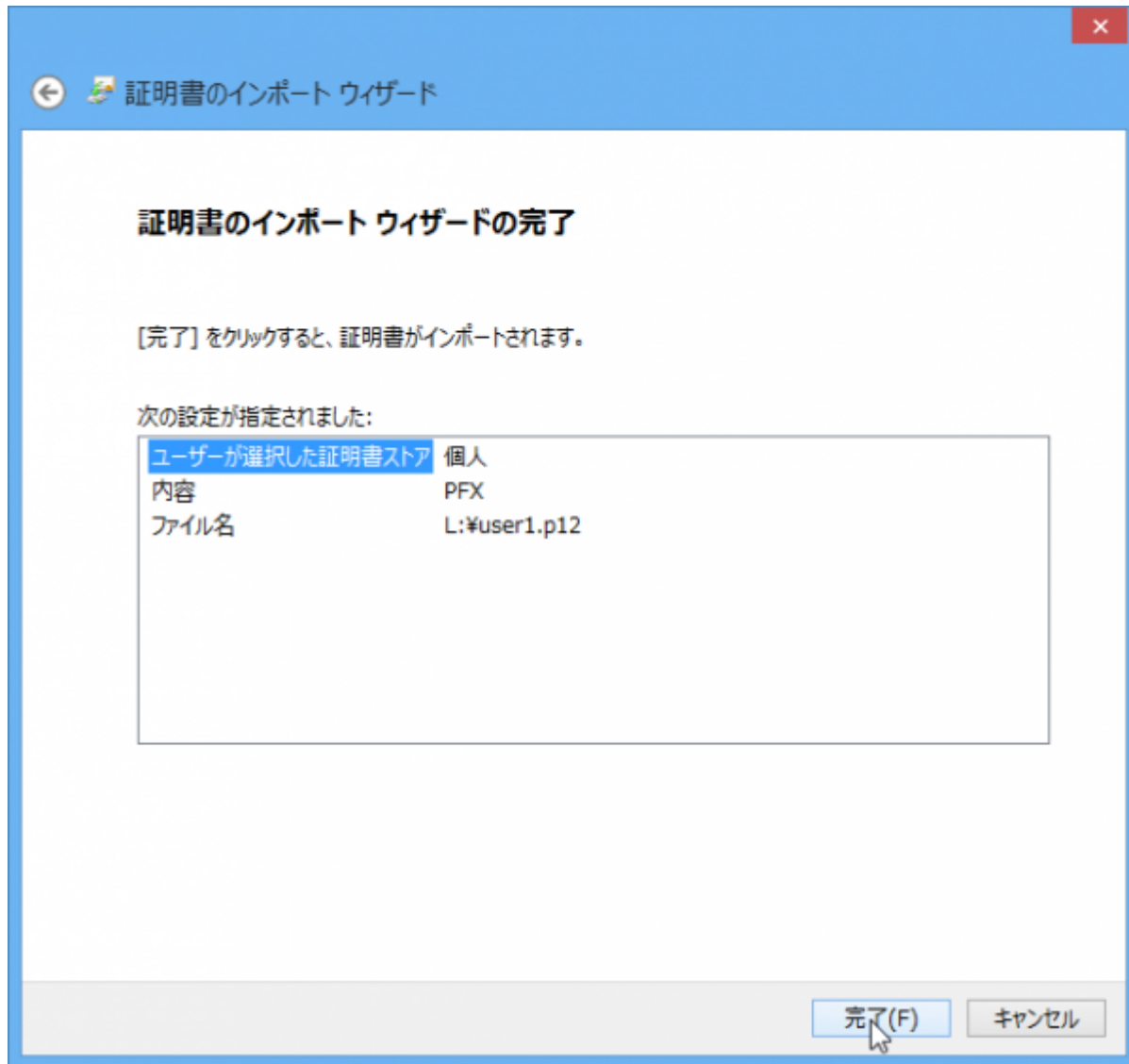
☐ 証明書の種類に基づいて、自動的に証明書ストアを選択する(U)

☒ 証明書をすべて次のストアに配置する(P)

証明書ストア:

参照(R)...

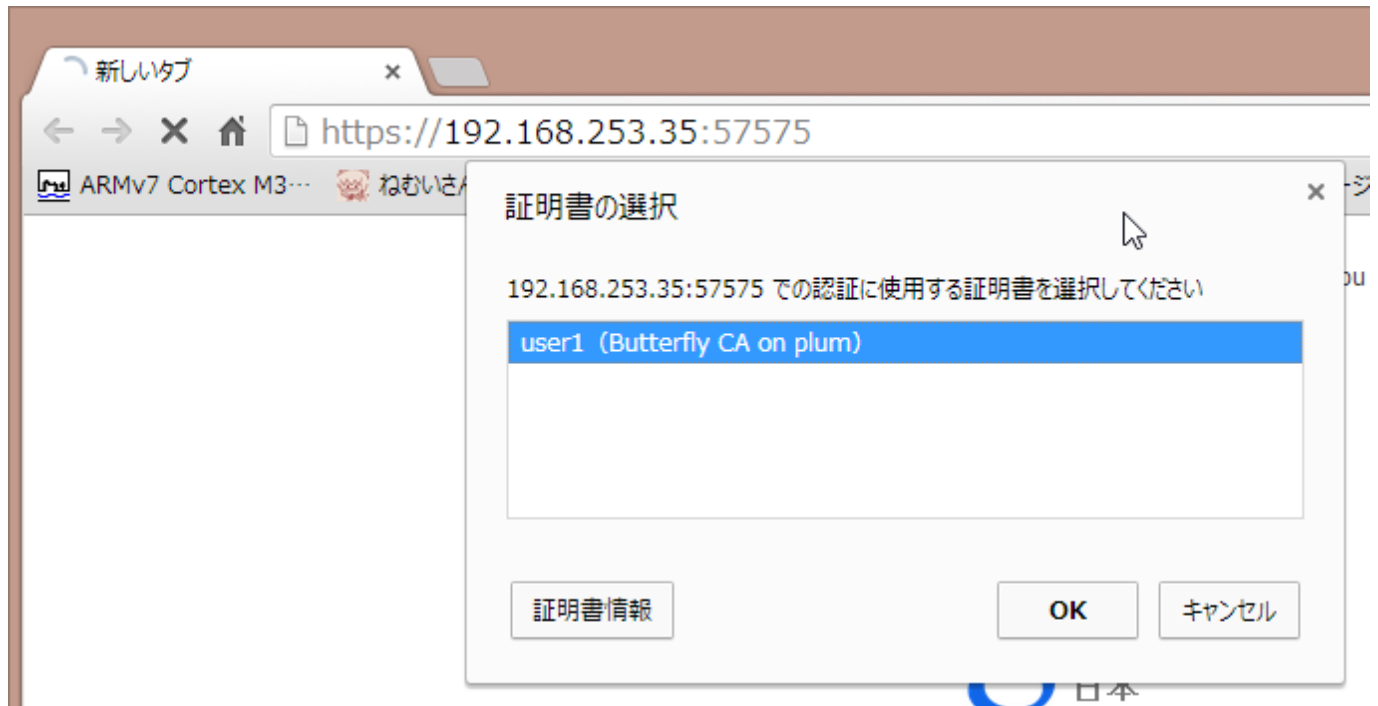
次へ(N)キャンセル



これで証明書がインポートできました。

ブラウザでのアクセス

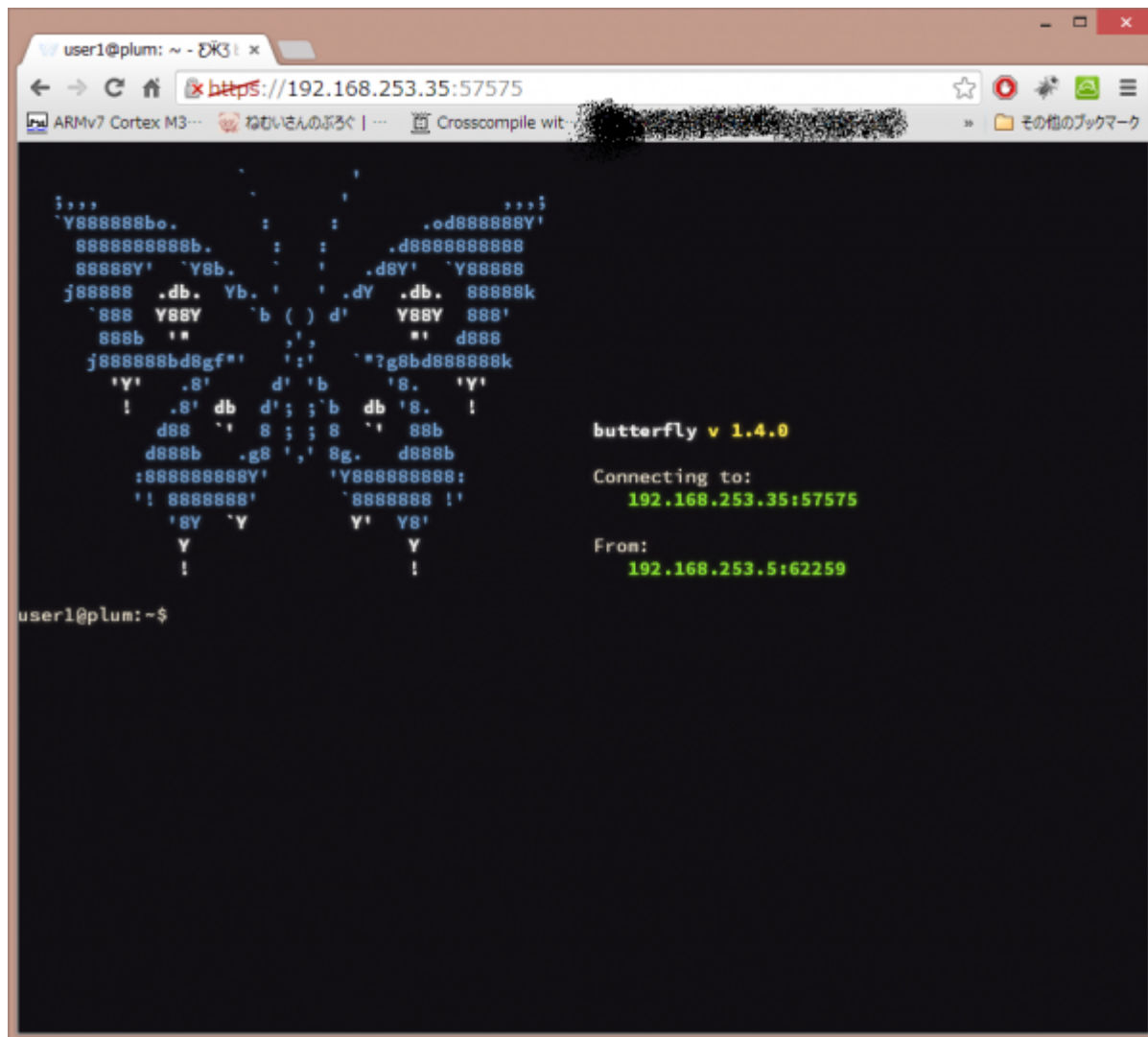
ブラウザでアクセスしてみます。
証明書を選択するダイアログが表示されます。



いわゆる“オレオレ証明書”で署名されたものですので、警告されますが、“このまま続行”をクリックします。



ターミナルの画面が表示されました。



- 1)
<http://paradoxxxzero.github.io/2014/02/28/butterfly.html>
- 2)
<https://github.com/paradoxxxzero/butterfly>

From:
<https://ma-tech.centurysys.jp/> - **MA-X/MA-S/MA-E/IP-K Developers' Wiki**

Permanent link:
https://ma-tech.centurysys.jp/doku.php?id=mae3xx_ope:use_web_terminal:start

Last update: **2018/12/24 08:05**